

NEWS

九大病院ニュース

2013.12

Vol.22

CONTENTS

- 2 特集／九州大学病院の TR —— 医療技術開発体制を完成形に
ARO 次世代医療センター長／教授 中西 洋一
- 4 免疫賦活 RNA ウイルスによる難治性悪性固形腫瘍に対する免疫細胞治療製剤の開発
先端分子・細胞治療科長／教授 谷 憲三朗
- 5 内視鏡手術シリーズ 18. 九州大学病院の内視鏡手術
光学医療診療部 副部長／准教授 清水 周次
- 6 医療法人エスダブリューシー 真田産婦人科麻酔科クリニック
理事長 平川 俊夫
遠隔地への退院支援
——長距離の移送をマネジメントする
医療連携センター 副センター長／看護師長 長門 佐智子
- 7 九州大学別府病院麻酔科の紹介
別府病院麻酔科 副科長／講師 吉武 慎一郎
分子イメージングセンター開所
放射線部／助教 馬場 眞吾
- 8 学会・セミナーのご案内

九州大学病院



九州大学病院の TR ——医療技術開発体制を完成形に



ARO 次世代医療センター長／教授 中西 洋一

アベノミクスとライフイノベーション

わが国は未曾有の高齢社会となりました。その中で国民と国家の活力を維持し発展させるためには、健康寿命の延伸が喫緊の課題です。そのためには、認知症、運動器疾患、呼吸循環器疾患などの加齢に特有で QOL を著しく低下させる疾患の画期的治療法の開発が求められています。そのような状況の下、安倍政権は、国家の成長戦略の根幹の一つにライフイノベーションを挙げました。

平成 24 年 3 月 21 日に総合科学技術会議はライフイノベーション戦略協議会を設置しました。7 月に提示された科学技術イノベーション政策推進専門調査会に JT の副社長が入っているのはご愛嬌です。また産学官連携体制は整備されつつあります。さらに、この 8 月には健康・医療戦略推進本部が設置され、本部長は内閣総理大臣、副本部長は内閣官房長官、他の全ての国務大臣が本部員に就任ということで、安倍内閣の本気度がうかがい知れます。ここでは、「世界最先端の医療技術・サービスを実現し、健康寿命世界一を達成すると同時に、健康・医療分野に係る産業を育成しわが国経済の成長に寄与するため、内閣に、健康・医療に関する成長戦略の推進及び医療分野の研究開発の司令塔機能の本部を設置する。」と謳われています。加えて、日本版 NIH も既成の事実となりいよいよ国

家プロジェクトが走り始めます。

ライフイノベーションと ARO 次世代医療センター

一連の国の施策に対応する九州大学の状況です。九州大学病院では、平成 24 年 4 月、大学改革事業の一環として高度先端医療センターを発展的に改組して ARO 次世代医療センターが設置されました。同年、文部科学省の橋渡し研究拠点事業（橋渡し研究加速ネットワークプログラム）、および厚生労働省の臨床研究中核病院整備事業に採択され、さらに、今年度は、医学研究院として「メディカル・イノベーション推進人材の養成」事業にも採択されました。

ここで言う ARO とは Academic Research Organization の略です。大学（アカデミア）が持つ専門性や特徴を活用して、臨床試験（治験・臨床研究）を行う組織のことです。わが国の臨床研究と治験の活性化を目指すための施策として、ARO を設置すべきとの方針が政府から出されています。

ARO 次世代医療センターは何を行うか？

ARO 次世代医療センターの業務を平たく言えば、「西日本の大学に眠る優れた原石を見だし、磨き、輝かせる、すなわち実用化に持ち込むこと」。文部科学省の橋渡し研究加速ネットワークプログラムでは、「創造的次世代医療実現化を担う ARO の構築」というタイトルで採択を受け、優れた発明に対して知的財産権を押さえ、有効性を示唆する根拠を実験的に証明し、ヒトにおける安全性を確かめることを中心に橋渡し研究（Translational Research: TR）を推進しています。

主要業務は以下のようなものです。

- 1) 西部日本を中心とした大学間 TR ネットワーク（West Japan Academia TR network: WAT-NeW）の構築
- 2) 企業と研究者を繋ぐネットワーク（Asia Pacific Research & Development Network: ARDENT）の構築

- 3) 西日本地域のアカデミアが有する新たなシーズの探索と知財管理・知財戦略
- 4) シーズの適正評価体制の構築
- 5) 適切かつ戦略的なプロジェクトマネジメントの実施
- 6) 医師主導治験を中心とした臨床試験の適切かつ迅速な実施
- 7) これら一連の事業を通じてアカデミア発の革新的医療技術の実用化を推進する。その上で、ARO と呼ぶに相応しい自立した T R 支援・推進組織を構築する。

一方、厚生労働省より採択された臨床研究中核病院整備事業では、「次世代に最新最適医療と希望を伝える ARO の構築」というテーマの下、ヒトにおける安全性をより深く追求すると共に、有効性を確かめ、薬事承認へと繋ぐ臨床試験を推進と共に、既存の医薬の最適治療を目指した臨床試験を支援・推進しています。

主要業務は以下のようなものです。

- 1) 被験者の安全管理体制の整備
- 2) 中央 IRB を含めた倫理審査委員会の整備
- 3) データ信頼保証のための整備（モニタリングユニットと監査ユニットの設置、データセンターの機能強化）
- 4) シーズに関する知的財産の管理や技術移転を実施する体制の整備
- 5) 臨床研究の活性化・質の向上に向けた戦略

すなわち、医薬・医療機器開発の早期を文科省プロジェクトが担い、後期を厚労省プロジェクトが担う訳です。

加えて、企業治験の積極的な支援も ARO 次世代医療センターの重要な業務となります。

医療イノベーション人材の育成事業

今年度は、医学研究院として「メディカル・イノベーション推進人材の養成」事業にも採択されました。イノベーションに必須の「基礎研究―橋渡し研究―臨床研究―実用化」の一連の流れを将来に向けて絶えることなく推進し、新しい学問領域として確立するために、これを担う優秀な人材を育成することがその設立の趣旨です。本プロジェクトは、九州大学が中心となって、福岡大学、久留米大学、産業医科大学の県内4大学が

それぞれの特長を提供しあうことでより効率的かつ魅力的な教育の場を提供することを目指しています。

さらに、ARO 次世代医療センターにおける研修を設けることで、医療の実用化をより身近に経験させることも骨子です。この取り組みにより、医療イノベーションの全体像を俯瞰する広い視野を持ち、かつ発明の実用化・健康寿命延伸への貢献といった具体的目標達成に向けた強い意志と行動力を持つ国際的人材を育成することを目標として、教授は英国ノッティンガム大学から招聘の予定で、教授1、准教授2、講師2、助教10の大講座で、英語授業も開講する予定です。

ARO が育む新規医療

これら一連の事業の責任を担う上での負荷は半半可なものではありません。組織も年々拡大し、現在では87名の専任スタッフを含めて100名以上の職員がARO業務に携わっています。また、毎年10億円を超える外部資金を獲得できるようになり、その成果を社会に導出すべき時期にさしかかってきました。現在、学外を含めた50件近くのシーズ開発支援を行っていますが、臨床フェーズに入ったものも出てきました。昨年より九州大学の発明による新規医薬の医師主導治験（臨床第Ⅰ相）が始まり、今年度中には、アカデミア発のシーズの治験4件があらたに開始予定です。その内訳もナノ医療、遺伝子治療、がん免疫療法、低分子化合物と新規性の高いものであり、その結果が期待されます。大学の発明を実用化することはもはや夢物語ではありません。厳しい大学間競争や国際競争の中で、一刻の停滞も許されない状況の中、AROの責任は益々重大なものになりつつあります。



免疫賦活RNAウイルスによる 難治性悪性固形腫瘍に対する 免疫細胞治療製剤の開発

先端分子・細胞治療科長／教授 谷 憲三郎



九州大学病院先端分子・細胞治療科では現在、標準療法不応の悪性腫瘍患者さんを対象に、新規免疫療法の臨床研究および臨床試験を行っています。これらの新規免疫療法の臨床の開発に加えて、私達の研究室（九州大学生体防御医学研究所・ゲノム病態学研究分野）では現在、悪性腫瘍に対する新規治療法として注目されている「腫瘍溶解性ウイルス療法」の基礎的研究を行っています。

腫瘍溶解性ウイルス療法とは、ウイルスの増殖を悪性腫瘍だけで行わせ、これらを効率よく溶かしてしまおうという治療法で、欧米を中心に臨床試験が数多く実施され、ワクシニアウイルスなどの DNA ウイルスについて第Ⅱ相レベルでの安全性と有効性が報告されています。また日本においても、既にヘルペスウイルスおよびアデノウイルスについて臨床研究の実施が認められ、特に前者では難治性脳腫瘍に対して注目すべき成果が報告されています。

しかし一方で、本療法は使用するウイルスにより、効果を発する悪性腫瘍が異なることも判明し、今後新たなウイルスの開発が期待されています。

私達は最近 38 種類のエンテロウイルスの抗腫瘍効果について検討しました。エンテロウイルスは別名・腸管ウイルスともよばれ、小型の一本鎖 RNA ウイルスの構造を持っています。細胞感染後、細胞質内でのみ増殖するため細胞のがん化などのリスクがなく、より安全性の高いウイルスと考えられています。

検討の結果、エンテロウイルスは非小細胞肺癌に対しコクサッキーウイルス B3 型が有望な抗腫瘍免疫賦活効果を持つウイルスであることを見出しました。しかし、コクサッキーウイルス B3 型はヒト正常細胞

への病原性も持っていることも解り、現在さらにウイルスを遺伝子改変して、病原性を持たない、より安全なウイルスへの改良に成功しています。

また一方で、病原性のより低い他のウイルスについても臨床応用の可能性を検討中です。これらのウイルスが抗腫瘍効果を示す原因についても検討しましたが、「アポトーシス」と呼ばれる細胞死がもたらされていることがその一因であることがわかりました。これらの新たなウイルスを製剤化し、大型動物での前臨床試験を行い、安全性を確認後、臨床試験を実施させていただきたいと考えています。

以上、新規がん治療法が悪性腫瘍に対する新たな日本発の治療法として着実な成長を心から願い、私どもは日々研鑽を重ねています。今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。



内視鏡手術シリーズ

九州大学病院の内視鏡手術 [第18回]

光学医療診療部 副部長／准教授 清水 周次

今もっとも注目されている外科手術法の一つに内視鏡手術があげられます。シリーズ第18回目は内視鏡手術の基本や診療科を越えたその共通点などについて光学医療診療部 清水周次が回答します。

Q. 内視鏡手術とは、 そもそもどのような手術でしょうか。

内視鏡と言えば、まず「胃カメラ」を思い出される方が多いのではないのでしょうか。先端に小さなカメラが付いた長いスコープを口から挿入して胃の中を検査する胃カメラは、正に内視鏡の代表です。しかし内視鏡は2つに大別され、主に内視鏡室で行われる検査用の内視鏡と、手術室で行われる外科用の内視鏡があります。ここで紹介される内視鏡は後者に属し、その手術部位により、腹部用の腹腔鏡（ふくくうきょう）、胸部用の胸腔鏡（きょうくうきょう）などいくつかに分類されます。

Q. 内視鏡手術のメリットは何でしょうか。

従来の開腹術で用いられる大きな創と異なり、5ミリから1センチの小さな傷で手術を行います。そのため整容性に優れることはもちろんですが、痛みが少ないことは患者さんにとって最も大きなメリットと言えます。また忘れてはならないのは術後の回復が早いことで、歩行や食事の開始もこれまでの手術よりも格段に速くなります。そのため退院も早まり、入院費用の合計は通常これまでの手術に比べ安くなります。

Q. 九州大学病院ではいつ頃から 内視鏡手術が始まったのでしょうか。

日本では1990年に内視鏡手術が開始されましたが、九州大学病院ではその翌年の1991年に胆石症に対する胆嚢摘出術が初めて内視鏡を使って行われました。

表：内視鏡手術の主な対象臓器・対象疾患

消化器領域	食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、胆管、膵臓、脾臓、虫垂
胸部領域	肺、胸腺、縦隔
乳腺領域	乳腺
婦人科領域	卵巣、卵管、子宮
泌尿器領域	腎臓、副腎、前立腺、腎盂尿管、膀胱
整形外科領域	肩関節、肘関節、手関節、膝関節、股関節、脊柱
小児外科領域	鼠径ヘルニア、横隔膜ヘルニア
耳鼻科領域	鼻、副鼻腔
心臓外科領域	冠動脈
移植領域	腎移植、脾移植

Q. 現在、九州大学病院ではどのような領域・臓器に対して内視鏡手術を行っていますか。

主な内視鏡手術の対象臓器を表にまとめましたが、あらゆる臓器でほとんどすべての手術が内視鏡手術で行われていると言っても過言ではないくらい、この20数年の間に内視鏡手術は急速に発展してきました。保険の適応範囲も数年毎に改定され、患者さんにとっても内視鏡手術を受けやすい状況が拡大し続けています。

Q. 九州大学病院における内視鏡手術の 特色について聞かせてください。

九州大学病院は特定機能病院であり、市中病院では一般的ではない最先端の内視鏡手術が各診療科で盛んに行われています。例えば胃の手術も学会などでは多くの発表が見られますが、未だこの病院でもできる状況には至っていません。しかしながら九州大学病院では既に胃の手術のほとんどが内視鏡を使って行われており、患者さんにとっては朗報と言えます。詳細については九州大学病院ホームページで紹介されている各臓器の解説をご覧ください。

Q. 今後の取り組みについて お聞かせください。

本年新型のロボットが導入され、泌尿器科を中心にさらに進化した内視鏡手術が開始されました。現在他の診療科においてもその適応が検討され、鋭意準備中です。また大学病院の使命として内視鏡手術の教育にも力を入れ、内視鏡トレーニングセンターで実地研修を定期的実施する一方で、アジア遠隔医療開発センターでは九州大学病院の先端的内視鏡手術を数多く海外へも紹介し、アジアのみならず世界中への情報発信を行っています。



図：国際手術カンファレンスの様子

内視鏡手術の適応に関するご相談・ご紹介は随時、受け付けています。

消化管外科(1)外来までお気軽にお問合せ下さい (TEL: 092-642-5453 初診日・再診日: 火・木)。

九州大学病院消化管外科(1) <http://www.med.kyushu-u.ac.jp/surgery1/>

医療法人エスダブリューシー 真田産婦人科麻酔科クリニック

理事長 平川 俊夫

昭和37年に東区名島で開院し、平成23年に現在の東区千早（香椎の3号線沿い）に移転しました。お産を中心として産婦人科全般を診療する有床診療所で、年間に約950件の分娩を扱い、月に約2,700人の患者さんを診ています。

開業して51年目になりますが、長年九州大学病院にお世話になっています。常勤医3名と非常勤医1名で診療していますが人手が不足しますので、診療応援医師派遣に産科婦人科からの全面的なバックアップをいただいています。また患者さんの急変の際にはいつも快く受け入れていただき、本当に頼りがいのある存在です。当院は、九州大学病院の「診療所及び歯科診療所」部門における紹介件数ランキングで、24年度には栄えある第1位（276件）となりました。これも、産科婦人科加藤聖子教授以下、教室の先生方のお力添えの賜物と心から御礼申し上げます。

当院には医学部保健学科の学生さんが助産学実習に来ていただき、また先生方にも妊産婦研究の場として利用していただいています。九州大学環境発達医学研究センターのヒトゲノム・遺伝子解析研究には、共同研究者として参加させていただき臨床検体を提供して

います。また、九州大学が福岡市東区の住民を対象に実施中のエコチル調査（子どもたちとその両親に参加してもらう大規模な疫学調査）では、当院も協力医療機関として積極的に参加登録や検体採取を行っています。

今後も九州大学病院との強い絆を保って地域医療に貢献して行きたいと考えていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



遠隔地への退院支援

—長距離の移送をマネジメントする—

医療連携センター 副センター長／看護師長 長門 佐智子

関東から単身赴任していた40代男性が脳炎を発症し、症状が安定したので家族のいる関東に転院することになりました。患者さんの状態は、気管切開および人工呼吸器による呼吸管理、経鼻からの経管栄養、点滴ルートがあり、コミュニケーションはジェスチャーで行い、日常生活動作は全介助の状態でした。

転院先医療機関は遠隔地の医療機関を選定するため困難な状況でしたが、移送にはさらに多くの調整が必要となりました。患者さんの状態から、気圧変化の激しい飛行機での移動はリスクが高いため、時間はかかってもリスクの少ない新幹線での移送と決めました。患者さんの病室のベッドから新幹線の座席までの乗り込みと、関東の到着駅から転院先医療機関の病室のベッドまでを民間救急に依頼。民間救急は患者等搬

送事業者が救急車同様の車両を所有し、医療処置の継続する患者さんの転院搬送や退院搬送に利用できます。吸引器や酸素の準備もあり、使用に応じて料金は発生するものの必要時は使用することができます。

移送には他にもさまざまな調整が必要になります。移動中の処置を最小限にとどめた点滴や注入の内容・時間、移動中に使用する医療材料の準備、付き添う医療者のシミュレーションなど。また、受け入れ体制の確認などが重要となり、長時間の移動による状態変化を予測して、転院前の患者さんの状態確認、民間救急の受け入れ、転院先医療機関到着までの連絡体制を明確にしておく必要があります。患者さんが安心、安全に移動するためには、これらをマネジメントすることが重要です。



一般社団法人 全民救患者搬送協会

私たちは安全・安心・快適な搬送サービスを提供する事業者団体です

全民救患者搬送協会 公式サイト

<http://www.zenminkyu.com/>

九州大学別府病院麻酔科の紹介

別府病院麻酔科 副科長／講師 吉武 慎一郎

麻酔科は、当院外科、整形外科（脊椎外科）の周術期管理を担っています。当院麻酔科の特色は、特に情報収集のための術前訪問に力を入れていること。安全な手術と言うことで、患者さんの病状、疾患歴、投薬歴など十分に聴き、患者さん個人に最適な麻酔法を選択し、内容説明に十分な時間を設けています。

また、説明内容が、説明後でも確認出来るよう専用の説明、同意書をお渡ししています。

次に多くの患者さんが心配な術後の痛みですが、術後痛を軽減するため、担当外科医とは緊密に連絡し、手術室での術後初期鎮痛管理を実施しています。麻酔科が設置されたのは、平成24年からで、年間400例程の症例があります。今後は、安全で身体に優しい麻酔管理に努めて行きたいと思っています。また疼痛外来では、温泉を利用した慢性疼痛治療も可能です。



別府病院全景

分子イメージングセンター開所

放射線部／助教 馬場 眞吾

九州大学では、九州大学病院にサイクロトロン施設の整備事業を進めてきましたが、このほど平成25年10月9日に「分子イメージングセンター」として開所しました。

分子イメージングは生体内の分子の挙動を画像化する技術で、近年、医学を含めた生命科学全体でさらに重要になりつつあります。その中核技術のPET検査を行うために、短半減期の放射性物質（ポジトロン核種）を製造するサイクロトロンが必要です。本院では、1980年代に、他大学に先駆けて院内にサイクロトロンを導入し診療・研究・教育に利用していましたが、装置や施設の老朽化に伴い2005年で稼働停止しました。以降、臨床使用する薬剤は業者からの供給で行っていましたが、この度、新サイクロトロン装置の設置・建物の整備を終え、稼働開始に至りました。

今回のサイクロトロンの運用開始に伴い、例えば、現在注目されているアルツハイマーの診断に用いられる臨床研究に必要なさまざまなPET薬剤の供給も可能になります。基礎研究においては将来、医学研究院との密接な連携で、動物用PETなどが導入され基礎研究基盤が整備されれば本センターをより有効に活用できるようになります。

また治験においては、画像診断、とくにPETト

レーサの新規開発や保険外使用に着目した臨床治験はいま非常に注目を集めながらも、現在全国に140を超えるサイクロ施設のうち、治験を実施できるハイレベルな施設は全国でも数カ所程度と極めて限られているのが現状です。当センターは薬剤合成のための基本エリアを2系統備え、治験薬GMPに対応可能な高い清浄度を達成している日本でも数少ない施設なのです。

今後、平成26年2月には日本で2番目となるPET/MRI装置が導入される予定で、今までにない分子イメージングが実現可能となり、本学のみならず、日本の生命科学の推進への貢献を目標としています。



センター全景

学会・セミナーのご案内

開催日	大会・会議の名称		
2014年1月7日	第22回福岡癌診療連携セミナー	【会 場】 【連絡先】	西鉄グランドホテル2階 TEL:092-642-5441 FAX:092-642-5458 九州大学臨床・腫瘍外科
2014年1月19日	日本内科学会九州支部主催第304回九州地方会 http://www.naika.or.jp/meeting/10/10chk/10_304.html	【会 場】 【連絡先】	九州大学医学部百年講堂 TEL:092-642-5316 FAX:092-642-5336 九州大学病院心療内科
2014年1月19日	第49回九州支部主催生涯教育講演会 http://www.naika.or.jp/meeting/10/10sgk/10_49.html	【会 場】 【連絡先】	九州大学医学部百年講堂 大ホール TEL:092-642-5316 FAX:092-642-5336 九州大学病院心療内科
2014年1月24日	第3回院内認定看護師（呼吸ケア領域）実践報告会 http://www.hosp.kyushu-u.ac.jp/app/modules/information2/detail.php?storyid=135	【会 場】 【連絡先】	九州大学病院ウエストウイング棟 臨床小講堂1 TEL:092-642-5956 FAX:092-642-5957 九州大学病院看護部
2014年1月30日	平成25年度第1回九州大学病院がん化学療法薬連携セミナー http://www.gan.med.kyushu-u.ac.jp/medical/guide.html	【会 場】 【連絡先】	九州大学病院ウエストウイング棟 臨床小講堂1 TEL:092-642-5890 FAX:092-642-5737 九州大学病院がんセンター
2014年2月1日	第6回歯科臨床セミナー	【会 場】 【連絡先】	九州大学医学部百年講堂 中ホール TEL:092-642-6490 FAX:092-642-6520 九州大学病院口腔総合診療科
2014年2月5日	第4回院内認定看護師（褥瘡・感染管理領域）実践報告会 http://www.kango.hosp.kyushu-u.ac.jp/	【会 場】 【連絡先】	九州大学病院ウエストウイング棟 臨床小講堂1 TEL:092-642-5956 FAX:092-642-5957 九州大学病院看護部
2014年2月14日	第34回九州大学病院がんセミナー http://www.gan.med.kyushu-u.ac.jp/	【会 場】 【連絡先】	九州大学病院ウエストウイング棟 臨床小講堂2 TEL:092-642-5890 FAX:092-642-5737 九州大学病院がんセンター
2014年2月15日	第171回九州大学眼科研究会	【会 場】 【連絡先】	九州大学医学部百年講堂 大ホール TEL:092-642-5648 FAX:092-642-5663 九州大学病院眼科
2014年2月20日	平成25年度第4回福岡県院内がん登録研修会 http://www.gan.med.kyushu-u.ac.jp/	【会 場】 【連絡先】	九州大学病院ウエストウイング棟 臨床大講堂 TEL:092-642-5890 FAX:092-642-5737 九州大学病院がんセンター
2014年2月20日	臨床研究認定更新講習「Translational Research Initiatives in Germany : Experiences on Cell Processing Services」 （仮題）	【会 場】 【連絡先】	九州大学病院外来診療棟2階 共用会議室1 TEL:092-642-6290 FAX:092-642-6292 九州大学病院ARO次世代医療センター
2014年2月22日	第6回日本ロボット外科学会 http://www.congre.co.jp/j-robot6/	【会 場】 【連絡先】	福岡国際会議場4・5階 TEL:092-716-7116 FAX:092-716-7143 株式会社コングレ内 第6回日本ロボット外科学会運営事務局
2014年2月22日・2月23日	第6回九州大学病院医師に対する緩和ケア研修会 http://www.gan.med.kyushu-u.ac.jp/	【会 場】 【連絡先】	九州大学医学部百年講堂 中ホール TEL:092-642-5890 FAX:092-642-5737 九州大学病院がんセンター
2014年2月22日・2月23日	平成25年度九州大学病院歯科医師臨床研修指導歯科医講習会 http://www.kenshu.hosp.kyushu-u.ac.jp/app/modules/information/detail.php?storyid=27	【会 場】 【連絡先】	九州大学歯学部臨床研究棟講義室（201） TEL:092-642-5222 FAX:092-642-5219 九州大学病院臨床教育研修センター
2014年2月24日	専門・認定看護師実践報告会 http://www.kango.hosp.kyushu-u.ac.jp/	【会 場】 【連絡先】	九州大学病院ウエストウイング棟 臨床大講堂 TEL:092-642-5956 FAX:092-642-5957 九州大学病院看護部
2014年2月25日	臨床研究認定更新講習「遺伝子治療・細胞療法」（仮題）	【会 場】 【連絡先】	九州大学病院総合研究棟（病院地区）RM102 TEL:092-642-6290 FAX:092-642-6292 九州大学病院ARO次世代医療センター
2014年2月25日	平成25年度第2回九州大学病院がん化学療法薬連携セミナー http://www.gan.med.kyushu-u.ac.jp/	【会 場】 【連絡先】	九州大学病院ウエストウイング棟 臨床小講堂2 TEL:092-642-5890 FAX:092-642-5737 九州大学病院がんセンター
2014年3月19日	平成25年度第3回九州大学病院がん化学療法薬連携セミナー http://www.gan.med.kyushu-u.ac.jp/	【会 場】 【連絡先】	九州大学病院ウエストウイング棟 臨床小講堂2 TEL:092-642-5890 FAX:092-642-5737 九州大学病院がんセンター

九州大学病院の 理念・基本方針

*理 念

患者さんに満足され、
医療人も満足する医療の提供ができる
病院を目指します

*基本方針

- ・地域医療との連携及び地域医療への貢献の推進
- ・プライマリ・ケア診療の充実
- ・全人的医療が可能な医療人の養成
- ・専門医療の高度化を目指した医学研究の推進
- ・国際化の推進

平成25年：12月発行

企画・発行／九州大学病院広報委員会

福岡市東区馬出3-1-1 TEL:092-641-1151（代表）

総務課広報室までご意見等をお寄せください。TEL:092-642-5205 FAX:092-642-5008

●九州大学病院ホームページ

<http://www.hosp.kyushu-u.ac.jp>